

## 「わが国石油・天然ガス開発の現状と課題」の公表について

エネルギー資源開発連盟(以下、「連盟」)は、2024年版「わが国石油・天然ガス開発の現状と課題」(以下、「現状と課題」)を発刊しましたので、お知らせいたします。

現状と課題は、石油・天然ガス開発業界を取り巻く現状を紹介するとともに、連盟会員企業の動向を分析し、エネルギーの安定供給確保とカーボンニュートラル社会実現への貢献を同時に進める連盟の活動状況を広く周知することを目的として毎年発刊しているものです。

### <ポイント>

- ① 石油・天然ガスの需要は、今後必ずしも減少するとは限らない。石油は2050年にかけてピークアウトしないとの見方、天然ガスの中でも特にLNGは今後も顕著に拡大傾向が続くとの見方がある。世界の<sup>1</sup>上流投資は増加傾向にあるが、コロナ前の水準に回復していない。これまでの上流投資の増加を牽引したのは中東・アジアの<sup>2</sup>国営石油会社であったが、<sup>3</sup>今後は、欧米メジャーにおいて、石油・天然ガス開発への回帰が見られる。
- ② 日本においては、連盟会員企業の2023年度の上流投資額は前年より増加、2024年度においては更なる増加が見込まれている。開発投資が主体であるものの探鉱投資も増加し、リスクテイクの動きが見られる。投資のうちカーボンニュートラル事業への投資比率は約20%だが、世界の<sup>4</sup>上流企業平均(約4%)より高い。
- ③ 23年の石油・天然ガスの自主開発<sup>5</sup>引取量162.5万バレル/日のうち、連盟会員企業が占める割合は83%程度と高い割合を占める。輸入量との比較においては、会員企業の自主開発引取量は、原油においては輸入量の約27%、ガスにおいては輸入量の約44%に相当し、会員企業はわが国のエネルギー安定供給に貢献している。LNG安定供給の重要性が高まっている中、会員企業は新規LNGプロジェクトを推進しており、LNG安定供給への更なる貢献が期待される。
- ④ 連盟会員企業のカーボンニュートラル事業動向については、現状では再生エネルギー分野が主体となっているが、今後の事業計画においてはCCS分野が最も多く、次いで水素・アンモニア(特にブルーアンモニア)分野も拡大傾向が見られる。

以上

添付資料 [わが国石油・天然ガス開発の現状と課題](#)

【お問い合わせ先】 エネルギー資源開発連盟 企画調査部(川井・松浦・岡本)

電話:03-3214-1701